

白山の弥陀原及び室平の石下にひそむ昆虫類

富 樫 一 次 石川県農業短期大学

INSECTS COLLECTED BENEATH THE STONES IN MIDAGAHARA AND MURODAIRA OF MT. HAKUSAN

Ichiji TOGASHI, *Agricultural College of Ishikawa Prefecture*

白山の弥陀原より高所に生息する地上性甲虫については、中根(1961)、高羽(1970)及び富樫(1977)らにより5種が報告されており、1978年には、石川県環境部発行の「白山弥陀原の保護と復元」という報告書の中で、10種の地上性甲虫類が記録されている。しかし、石下にひそむ昆虫類に関する報告は、ほとんどないといってよいであろう。

筆者は、1978年9月、弥陀原の復元に関する基礎調査の一環として、石下にひそむ昆虫類の調査を行ない、若干の知見を得たのでここに報告する。

調 査 方 法

調査は、弥陀原の復元に関する基礎的資料を得る目的であったため、もっとも原始的で、かつ非能率的な、石をおこして探す方法を用いた。しかし、おこしにくい石や、斜面にある石は、調査の対象から除外した。

調査結果と考察

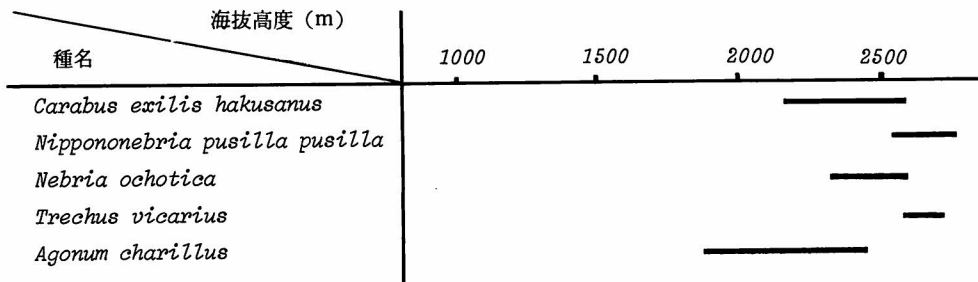
今回の調査で得られた昆虫は、地上性甲虫類も含め20種であった(第1表)。

この中で、*Saldula saltatoria* ミズギワカメムシ、*Damaster blaptoides* マイマイカブリ、*Anisodactylus signatus* ゴミムシ、*Philonthus japonicus* クロコガシラハネカクシ、*Syneta adamsi* カバノキハムシ、*Scepticus insularis* クワヒョウタンゾウムシの6種は、平地にも生息している分布範囲の広い広分布種であった。また *Nebria sadona* サドマルクビゴミムシ、*Pterostichus subovatus* マルガタナガゴミムシ、*Synuchus cycloderus* クロツヤヒラタゴミムシは、別当出合や市瀬でも採集されている山地性の種であった。

これに対し、*Nippononebria pusilla pusilla* チビマルクビゴミムシ、*Nebria ochotica* クロマルクビゴミムシ、*Trechus vicarius* オンタケチビゴミムシ、*Agonum charillus* オンタケヒメヒラタゴミムシの4種は、弥陀原より高所でのみ採集された。このうちチビマルクビゴミムシとオンタケチビゴミムシの2種は、白山のほかは立山、穂高岳、乗鞍岳や御岳の高山帯にも生息することが報告されているため、この2種は、本州における高山種ということができよう。しかし、クロマルクビゴミムシとオン

第1表 石下より採集された昆虫類

種名	白山に於ける生息地	採集個体数
<i>Saldula saltatoria</i> L.	弥陀原	2
<i>Carabus exilis hakusanus</i> Nakane	弥陀原・血の池	2
<i>Damaster blaptoides</i> Kollar	弥陀原	1
<i>Nippononebria pusilla pusilla</i> S. Uéno	室平	6
<i>Nebria ochotica</i> Sahlberg	弥陀原, 室平, 万才谷	4
<i>Nebria sadona</i> Bates	弥陀原, 万才谷	2
<i>Trechus vicarius</i> Bates	室平	12
<i>Bembidion</i> sp.	弥陀原, 室平	14
<i>Pterostichus subovatus</i> (Motschulsky)	弥陀原	1
<i>Synuchus cycloderus</i> (Bates)	弥陀原	1
<i>Agonum charillus</i> (Bates)	弥陀原	2
<i>Anisodactylus signatus</i> (Panzer)	弥陀原	1
<i>Harpalus fuliginosus</i> (Duftschmid)	弥陀原	1
<i>Lobrathium</i> sp.	弥陀原	1
<i>Philonthus japonicus</i> Sharp	弥陀原	1
<i>Hypolithus motschulskyi</i> Fleutiaux	弥陀原, 万才谷	5
<i>Syneta adamsi</i> Baly	万才谷	2
<i>Scepticus insularis</i> Roelofs	弥陀原	1
<i>Ichneumonidae</i> Gen. sp.	万才谷	1
<i>Myrmica kurokii</i> Forel	弥陀原, 室平	6 (巢)



第1図 地表性甲虫数種の垂直的分布

タケヒメヒラタゴミムシの2種は、三ノ越や畜生谷でも採集されているため、亜高山性の種といっ
てよいであろう。

Harpalus fuliginosus ミヤマゴモクムシは、1個体得られたに過ぎないが、白山では前2種に似た分
布をしているものであろうと推察している。

Carabus exilis hakusanus ハクサンクロナガオサムシは、白山々系から知られている種で、その垂直
的な分布範囲はかなり広いが、個体数は多くなかった。

Myrmica kurokii クロキクシケアリ、*Hypolithus motschulskyi* ミヤマヒサゴメツキ、*Bembidion*

来なかった。しかし、森本・長谷川(1973)の行なった乗鞍岳における土壌層甲虫群集の調査によれば、高山帯でチビマルクビゴミムシやオンタケチビゴミムシの出現頻度は、環境の破壊されていない場所よりも、破壊された場所の方が高かったという。

この点から判断すれば、弥陀原や室平は、平瀬登山道周辺よりも環境破壊が進んでいると推察することが出来よう。

ま と め

1. 弥陀原より高所の石下にひそむ昆虫類 20 種を記録した。
2. 20 種のうち、高山性の昆虫はチビマルクビゴミムシとオンタケチビゴミムシの 2 種であった。
3. 弥陀原や室平の石下にひそむ昆虫類は、平瀬登山道周辺の石下にひそむものより多かった。

謝 辞

最後に、種の同定をして頂いた農業技術研究所の土生和申博士、国立科学博物館の上野俊一博士、文献について御教示頂いた信州大学の吉田利男助教授に対し深く感謝の意を表する。また種々の御教示を賜った金沢市の高羽正治氏に感謝の意を表する。

文 献

- 森本尚武・長谷川政典, 1973, 北アルプス乗鞍岳における林道の影響による土壌層甲虫群集の差異, 中部山岳地帯における生物環境の破壊とその復元に関する基礎的研究第1号, 45~52.
- Nakane, T. 1961 New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XV. *Fragmenta Coleopterologica*, Pars 1 : 1-6.
- 高羽正治, 1970, 甲虫類雑記Ⅲ, とっくりばち 15 : 2-3.
- 富樫一次, 1977, 白山のゴミムシ 2 種, 昆虫と自然 12 (13) : 24.
- 富山県昆虫研究会編, 1976, 立山の昆虫相, 中部山岳国立公園立山黒部地区学術調査報告書, 富山県, pp. 223-369.
- 上野俊一, 1953a. 日本の甲虫 (6), 新昆虫 6 (1) : 55-60.
- , 1953b. 日本の甲虫 (12), 同誌 6 (11) : 38-45.